



コミュニティへの参画およびコミュニティの発展

基本方針

「社会の持続可能な発展」と「持続可能な事業成長」にむけて、地球規模の視点で社会課題をとらえ、その解決にむけた「お役立ち考働」を行ってまいります。

長期目標

- 社会・環境課題に関する勉強会とダイアログ年間2回以上の実施。

重点取り組み

- 国連グローバル・コンパクトの10原則や持続可能な開発目標 (SDGs) など国際社会の枠組みの社内での理解浸透と貢献にむけた考働の検討
- 「社会の持続可能な発展」にむけた研究機関やNGO/NPOなどとの共創関係の構築と取り組みの開始 (動物実験代替法学会、大阪大学大学院 薬学研究科など)

■ 日本動物実験代替法学会

近年の化粧品に対する安全性意識の高まりの中、より安全・安心な製品開発を進める上でさまざまな評価技術が求められています。

わたしたちマンダムにおいても動物実験を実施しない方針を表明しており、日本動物実験代替法学会にて技術情報を発表するとともに、2008年より動物実験代替法の国際研究に対し、毎年、助成金の公募を実施し、研究費を助成しています。

2017年11月24日(金)日本動物実験代替法学会第30回大会において、これまでのマンダムの研究助成活動が、日本動物実験代替法学会に大きく貢献したと認められ、当学会より「功労賞」を授与されました。

なお、第11回(2018年度)の助成テーマに決定した3テーマに対しては、2018年4月より研究費の助成を開始しています。



 [マンダム公式WEBサイト](#)
CSR情報

- コミュニティへの参画および発展：動物実験代替法に関する取り組み

 [外部サイト](#)
[日本動物実験代替法学会公式WEBサイト](#)

■ 大阪大学大学院 薬学研究科との共同研究講座

2015年6月、国立大学法人大阪大学とマンダムは、大阪大学大学院 薬学研究科に「先端化粧品科学共同研究講座」(共同研究講座)を設置しました。

共同研究講座では、近年発展の著しい再生医療分野などの最先端技術を駆使し、次世代の機能性化粧品や医薬部外品などへの応用・創出に取り組んでいます。

また、アジアにおける技術のグローバルネットワークを広げる取り組みの一つとして、アジアの大学からの若手教員の大阪大学大学院 薬学研究科への招聘に積極的に取り組んでいます。

なお、これまでの研究成果として発表した内容は以下の通りです。

- ヒトの汗腺幹細胞を発見し、生体外での汗腺様構造体の再生に成功
- ヒト皮脂腺の3次元観察に成功し、皮脂分泌における独自の評価法を確立
- ヒト皮脂腺で生成された皮脂量を数値化することに成功し、新たな評価法を確立 ~この評価法を応用してフィチン酸の皮脂抑制効果を実証~



 [マンダム公式WEBサイト](#)
CSR情報

- コミュニティへの参画および発展：大阪大学大学院 薬学研究科との共同研究講座

■ 教育支援

支援学校や施設での「身だしなみ教室」

知的障がいのある方の自立支援の一環として、就労するにあたり社会で必要とされる“身だしなみ”を身につけていただくことを目的に、2004年度より「身だしなみ教室」を継続的に実施しています。

「身だしなみ教室」は知的障がいのある方を対象に開催しているため、“初めて化粧品を使用する人”を想定して、商品の開け方、使い方、しまい方、そして社会へ出て必要とされる“身だしなみ”については“おしゃれとの違い”をハッキリとお伝えし、“清潔感”をキーワードに講義を進めています。

2017年度は、8つの学校・施設で実施し、184名の方に参加いただきました。

中学生の職場体験「トライやる・ウィーク」への協力

兵庫県教育委員会では、中学生の地元企業への職場体験「トライやる・ウィーク」を1998年から企画実施されており、福崎工場ではその受け入れ先として、初年度から継続して協力しています。

トライやる・ウィーク実施の主旨は、中学生が職場体験、福祉体験、勤労生産活動など、地域でのさまざまな体験活動を通じて、地域に学び、共に生きる心や感謝の心を育み、自立性を高めるなど、「生きる力」の育成を図ることにあります。また、トライやる・ウィークへの取り組みを通じて、学校、家庭、地域社会の連携を深め、社会全体で子どもたちの人間形成や社会的自立の支援を行うことで、子どもたちを中心とした地域コミュニティの構築へと発展することも期待されています。

2017年度は、中学生4名からの体験希望があり、福崎工場で5日間にわたり実施しました。



公益財団法人 西村奨学財団との取り組み

公益財団法人 西村奨学財団は、南西アジア・東南アジア・東アジア諸国・地域からの留学生と招聘教員に対し、奨学金援助を行うことにより、より充実した勉学・教育および研究を継承させることを目的として、マンダム前社長の西村育雄により1999年に設立されました。

西村奨学財団は、奨学金の給付を行うほか、日本留学中に生産技術や環境対策などで今後の参考にさせていただくため、社会見学や夏季研修旅行などを行っており、毎年、福崎工場の見学も実施しています。

2017年度は、インドネシア、韓国、タイ、台湾、中国、ベトナム、マレーシア、モンゴルなど多様な国と地域からの合計35名(男性16名・女性19名)の奨学生が参加しました。



スーパー・グローバル・ハイスクール事業への協力

わたしたちは、グローバルな人財の育成は、社会の持続可能な発展と今後のわたしたちの事業の健全な成長を支える基盤であると考えています。

2017年度は、文部科学省が推進しているスーパー・グローバル・ハイスクール(SGH)事業の指定校である大阪府立千里高等学校さまと関西大学高等部さまの取り組みに協力しました。

大阪府立千里高等学校さまでは、「秋休み企業訪問研修」と「千里フェスタ」のプログラムの一つである国際文化科2年「探究」研究発表会に協力しました。

また、関西大学高等部さまでは、「大阪フィールドワーク ～持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)について考える特別授業～」に協力しました。



マンダム公式WEBサイト

CSR情報

●最新CSR情報:2018年3月6日記事
2017年11月6日記事
2017年7月21日記事

■ 海外での取り組み

BOPビジネス※の展開

マンダムインドネシアの事業展開の一つとして、小袋化や小型化など商品のサイジングを工夫することにより、現地のBOP層の生活者でも買いやすい価格で購入できるような商品を提供しています。

男性用では、「ギャツビー」のウォーターグロスやヘアクリームなどヘアスタイリング剤のサチエット(小袋)商品、女性用では、インドネシアの人気メイクアップブランドの一つである「ピクシー」ブランドからそのままでも使用できるようにパフを同梱したツウウェイケーキのレフィル(詰めかえ)などを製造・販売しており、現地のBOP層や地方エリアなど幅広い生活者に受け入れられています。

こうしたBOP市場むけの商品は、生産国のインドネシアのみでなく、フィリピンやインドシナエリア、遠くは西南アジアやアフリカなどにも輸出しており、現地のBOP層の生活者へのお役立ちのみでなく、現地の化粧品市場や流通網の拡大にも貢献することを目指しています。



※BOPビジネス: 途上国におけるBOP層(Base of the Economic Pyramid層)を対象(消費者、生産者、販売者のいずれか、またはその組み合わせ)とした持続可能なビジネス。BOP層とは、「経済ピラミッドの底辺層」「所得ピラミッドの最下層」の意味で、一人当たり年間所得が購買力平価で3,000ドル以下の階層であり、全世界人口の約7割である約40億人が属するとされています。

インドネシアの教育委員会との取り組みによるビジネス実習研修

マンダムインドネシアでは、現地の教育委員会と協働した取り組みとして、ジャカルタおよびその近郊にあるマーケティング専門の高等学校(約20校)でビジネス実習研修を実施しています。

この研修を通して、生徒たちはビジネスに必要なスキルやマナーを学ぶとともに、マーケティング実習として、校内にある売店を使用して商品の仕入れから販売までの実務を、数カ月間実施します。

実施後には、社員を参加校ごとに派遣して生徒たちと一緒に総括を行うとともに、コンクールの表彰なども行っています。



乳がん月間での取り組み

乳がん月間の10月に、マンダムインドネシアの従業員を対象にしたキャンペーンを実施しました。キャンペーン期間中は、がんの予防や早期発見のための啓発活動を行うとともに、インドネシアで活動しているLove Pink Foundationにご協力いただき、Pink Talkというイベントも開催しました。

Pink Talkでは、乳がんに対する知識を学ぶとともに、乳がんを克服された3名の方を講師としてご協力いただき、家族やパートナーとともにがんの早期発見にむけて積極的な役割を果たすことの重要性について学びました。



インドネシアでのその他のCSR活動

当社のインドネシア連結子会社であるマンダムインドネシア(会社名: PT MANDOM INDONESIA Tbk、1993年9月ジャカルタ証券取引所へ上場)においても、人権、労働、環境、腐敗防止に配慮したCSR活動を推進しています。詳しくは、マンダムインドネシア公式WEBサイトをご参照ください。



マンダムインドネシア公式WEBサイト
CSR情報(英語版)

